日本糖尿病学会　国際交流委員会
IDF-WPR 2026 Global Village ブース出展報告書

作成日：2026 年 8 月 31 日

出張者：事務局　金子

◆　スケジュール

出展先：IDF-WPR 2026 & ADC 2026 & Metabolic Diseases 2026 in Melbourne, Australia

設営日：2026 年 8 月 18 日（火）

公開日：2026 年 8 月 19 日（水）～21 日（金）8:30～18:00　※最終日 16:00 まで

会　場：ブース番号 114b, Global Village, Exhibition Centre

Presidential Tour：8 月 21 日（金）14:00～

◆　掲示物

ポスター	学会活動紹介（2 枚組） 第 5 次「対糖尿病戦略 5 ヵ年計画」（2 枚組） 第 70 回年次学術集会
配布物	学会活動紹介リーフレット（150 枚） 第 5 次「対糖尿病戦略 5 ヵ年計画」リーフレット（50 枚） 第 70 回年次学術集会チラシ（100 枚） 英文誌チラシ（60 枚） 英文論文別刷り 2 種（30 部）、見本本（10 冊） 英語 inquiry 用ビジネスカード　（全て英語版）
ノベルティ	ポケットティッシュ（150 個）、折り鶴（100 羽）



◆　担当者

事務局員 1 名、会員からの公募担当者 1 名

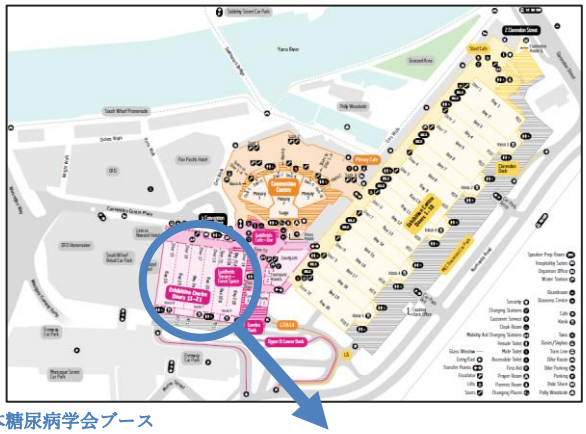
◆　ブース担当者の公募

若手会員の海外学会参加支援策として、日本糖尿病学会（以下 JDS）の理事・監事の推薦によりブース担当者を募集し、次の 1 名を選出した。旅費・大会参加費は JDS が支援し、ブース駐在担当をしながら学会に参加した。

藤川　勝平会員　　順天堂大学大学院　代謝内分泌内科学

◆　**ブース設置エリア**

IDF-WPR 所属団体のブースは、エキシビションセンター（企業展示、ポスターなどのエリア）内に Global Village として設置された。企業展示を含む出展数は計 66 ブースであった。JDS のブースは会場奥の壁側で目立つ位置ではなかったが、初日は約 90 名の来訪があり盛況だった。



日本糖尿病学会ブース





◆　**展示・配布物への反応**

- 学会活動や日本の糖尿病の状況などの基本情報をポスター・ハンドアウトにそれぞれ纏め、質疑応答の主資料として使用した。
- Australasian Diabetes Congress（ADC） 2026※と併催のため、糖尿病教育者の来訪が多く、デバイス・保険制度・糖尿病関連の資格制度などの実務的・専門的な質問が目立った。

  ※Australian Diabetes Society（ADS）および The Australian Diabetes Educators Association（ADEA）による合同年次学術集会
- IDF-WPR 所属団体の多くは来訪者へのノベルティを用意していた。JDS はポケ

ットティッシュ・折り鶴を配布し、来訪者から好評を博した。

◆ **ブース来訪者数（日別）**

8 月 19 日：約 90 名

8 月 20 日：約 50 名

8 月 21 日：約 10 名

アジア	インドネシア、韓国、スリランカ、タイ、中国、日本、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、マレーシア
オセアニア	オーストラリア、ニュージーランド
ヨーロッパ	ポルトガル
南北アメリカ	アメリカ、アルゼンチン

◆ **来訪者からの主な質問**

【学会・学術集会】

- JDS の活動概要
- 次回年次学術集会の時期と開催地、また国際会議か
- 年次学術集会に英語のプログラムはあるか
- 非会員・外国人でも年次学術集会に参加可能か
- 会員は全員医療従事者か

【ガイドライン・学会誌・研究など】

- 英文誌は無料で閲覧可能か、また投稿方法
- 南アジア諸国との共同研究など、コラボ活動はあるか
- 1 型糖尿病の研究を行っているか

【日本の糖尿病に関する情報】

- 糖尿病の患者数、1 型と 2 型の割合
- 糖尿病患者数は減少しているか
- 日本と海外における糖尿病を取り巻く状況の違い
- 日本に糖尿病に対するスティグマはあるか

【デバイス・治療・保険・制度など】

- 日本の主要なインスリン製剤企業はどこか
- 日本でインスリンポンプは使用されているか、保険は適用されるか
- 日本にインスリンペンや CGM を製造している企業はあるか
- CGM の費用は日本の公的医療保険でカバーされるか

- 1 型と 2 型糖尿病で保険適用の有無は変わるか
- 肥満の治療方法
- 糖尿病のフットケア方法
- 低血糖時に何を摂取するか
- 糖尿病患者を眼科へ紹介する際の流れ
- グリコアルブミン測定は日常診療で使用するか
- 糖尿病患者のスクリーニング方法（健康診断の仕組み、未受診者への対応、学齢期の健診）
- 日本では 1 型糖尿病の発覚時に、インスリン非依存期（Stage 1・2）のスクリーニングは可能か、また実施方法
- オーストラリアで 1 型糖尿病の Stage2 に対して適応が通ったテプリズマブは、日本で適応されているか
- 医療現場において AI を活用していない理由
- GLP-1 受容体作動薬を用いた減量についてどう考えるか

【医療従事者の教育・資格・制度など】
- 糖尿病専門医以外に、看護師や栄養士が取得できる糖尿病関連の資格はあるか
- 医師以外に糖尿病教育者や看護師が病院で活躍できる体制があるか

【その他】
- 日本の平均寿命
- 日本人、特に高齢者はより健康的な食事を摂っているか
- 日本の出生率低下の理由
- 糖尿病に関する漫画やアニメを制作しているか

◆ **今後に向けて**
- 日本人の参加者が少ない印象があった。海外学会への参加支援施策や、開催の広報活動を継続する。
- 英文誌チラシ・第 70 回年次学術集会チラシ・学会活動紹介リーフレットは約半数が残ったため、次回は部数を見直す。その他の資料の持参数は適量であった。
- 年次学術集会の英語プログラムの有無に関する質問が多く、海外参加者向け情報の発信が必要である。
- 年次学術集会が東京開催の場合、会場までのアクセスは口頭案内で十分に伝わった。地方開催の場合は、チラシ裏面へのアクセス案内の掲載が望ましい。

以上